

これからの
コミュニティ
をそだてる
スタイルブック

はじめに

宇治市では、地域コミュニティをより活性化していくために、人が気軽に集える「ばしょ」、人が集う「きっかけ」、そして集った人々の継続的な「つながり」の3つを大切にしたい。新たなコミュニティ「まちのリビング」の創出を目指しており、その一環として、地域や地域活動団体の皆様による取組を、様々な補助金を通じて応援しています。

本書では、市内で実際に行われている取組をご紹介します。本書が身近な場所で新たなコミュニティが育まれていくキッカケとなれば幸いです。



[まちのリビングイメージ図]

目次

01	まちづくりねっと・うじ×小倉連合町内会の取組	2~7
02	ろくみら実行委員会の取組	8~11
03	はすみんかふえの取組	12~13
04	花おり freeスペースの取組	14~15
05	en bridge の取組	16~17
06	しろくまべえすの取組	18~19
07	ここいこおぐらのおうちの取組	20~21
08	補助制度の紹介	22~23
09	市民協働コーディネーターの紹介	24

まちの縁がわラボ

[取組の概要]

地域住民のニーズや公共施設の活用アイデアを把握するため、地域住民の声を聞くワークショップを実施。ワークショップでは多様な意見や視点が集まり、それらを踏まえて、既存の町内会事業と連携した具体的な取組へと発展。

町内会（小倉連合町内会）と地域活動団体（NPO法人まちづくりねっと・うじ）との協働により、それぞれの強みを活かした活動が展開され、多様なつながりが創出された他、地域における新たな交流空間の形成につながった事例。

事業の流れ

Step.1

第1回
ワーク
ショップ

地域住民の方々と、「老ノ木集会所・老ノ木児童公園でやってみたいこと」をテーマに**"意見発散の場"**と位置付けたワークショップを実施。アイデアを出し合い、地域の公共施設を楽しく活用するイメージを膨らませました。



↑ 第1回ワークショップの様子

Step.2

第2回
ワーク
ショップ

地域住民の方々と、「11月8日のイベントでなにがしたい？」をテーマに**"意見収束の場"**と位置付けたワークショップを実施。地域ニーズ実現のためにどんなイベントにするか、イベントのテーマや内容を地域のみみんなで考えました。



↑ 第2回ワークショップの様子

Point

単にワークショップを開催するだけでは参加が広がりにくいいため、参加者が気軽に楽しめるイベントと同時に実施することで、イベント参加者を自然な形でワークショップへ巻き込むことができ、普段は施設を利用していない層を含め、多様な立場の方と意見交換することができました。

[ばしょ・きっかけ・つながり]

- ばしょ** : 老ノ木集会所・老ノ木児童公園
- きっかけ** : 地域住民による集会所と公園を一体活用したイベントの実施
- つながり** : イベント実施にかかる多様な主体の協働による顔の見える関係性づくり



Step.3 イベント (まちの縁がわらボ)

町内会、地域活動団体、NPO、学生などの多様な主体が協働し、集会所と公園を一体的に活用してイベントを実施した。その結果、参加者同士の会話や交流が自然に生まれ、会場の各所で**新たなつながり（縁）**が創出される等、交流の広がりが見られた。



↑ まちの縁がわらボの様子

Point

本イベントが、地域住民と地域で活動されている方々をつなぐきっかけとなるよう、地域での活動を始めたばかりの方々と協働することを意識して事業コーディネート。

Step Up

地域住民の集いの場 (まちのリビング)

イベントを通して生まれた交流（縁）がきっかけとなり、子ども食堂や集会所の開放事業へと取組が波及し、地域内の様々な場所で新たな「交流空間」が創出されている。こうした動きにより、日常的に人が集い、関わり合う機会が広がる等、地域における新たなつながりが生まれている。



↑ 新たに小倉地域で始まった取組 ↑

Point

- 【げっぽ食堂】
地域の子もたちを対象とした子ども食堂を開催！
- 【おぐらうんじ】
定期的に老ノ木集会所を開放し、地域住民が気軽に集える空間を創出！

Step.1 第1回ワークショップの様子



Step.2 第2回ワークショップの様子



Step.3 まちの縁がわらボ



Step Up おぐらうんじ(小倉のまちの未来を育むラウンジ事業)



Step Up げっぽ食堂



[事業]コーディネーターの想い

NPO法人まちづくりねっと・うじ 日野代表理事



人とのつながりを大切にしながら、みんなの「チャレンジしたいこと」や「やってみたいこと」を安心して実現できる場が、これからますます重要になると感じており、今回の事業がその一つのモデルになればとの想いでコーディネートしました。

また、今回の事業をはじめ、学生さんや子育て中のお母さんたちが、それぞれの想いや得意なことを活かしながら、しなやかに楽しく挑戦している姿からは、多くの気づきや刺激をいただいています。

こうした前向きな挑戦が地域の新しいつながりや活力につながっていくと信じて、若い世代の「やってみたい」という気持ちを、これからも温かく後押ししていければと思っています。

[地域の想い]

小倉連合町内会 野川会長

町内会は、地域コミュニティ活動の中核を担う、かけがえのない存在です。少子高齢化が進む中で、その活動は決して容易ではありませんが、日々の活動が、顔の見える関係と温かな”地域のつながり”を育んでいます。

“地域のつながり”の積み重ねは、いざという時の支え合い＝防災力の向上にもつながり、地域の安心・安全を支える大きな力となります。一人でも多くの方に関心を持っていただき、共に地域を盛り上げていければ幸いです。

また、今回の取組は、既存の町内会活動に新たな主体が加わることで実現しました。「役員の負担軽減」や「新しい活動を始めてみたい」と考えている他町内会の皆様にとって、少しでも参考になれば嬉しく思います。



ろくみらプチまつり

[取組の概要]

「ろくみら実行委員会」主催による地域の交流会「スナック地蔵」の中で生まれた地域活性化のアイデアを基に、地域住民が主体的に関わりながら協働して具体化したイベント「ろくみらプチまつり」を実施。

日常的な集いの場を通じて生まれた関係性が基盤となり、イベントの実施に至ったものであり、その過程においても新たな担い手や関係者の参画が見られた。

イベントの実施を契機として、既存のつながりが一層深まり、新たなつながりや取組の創出へと広がっていった事例。

事業の流れ

Step.1

ろくみら
実行委員会
設立

「みんなで地域の未来をつくる」という理念のもと、ろくみら（みんなで六地蔵の未来をつくるプロジェクト）実行委員会が設立。



↑ろくみら実行委員会のメンバー

Point

同じ思いをもったメンバーが数人集まれば活動は可能です。小規模でも無理のない形で継続的な活動につなげることが重要。

Step.2

地域住民の
集いの場
(スナック地蔵)

定期的に地域の公会堂を開放し、地域の未来について語り合う交流会（スナック地蔵）をオープン。

交流が広がる中で、地域活性化のアイデアが生まれ、近隣の商店街や町内会などと協働しイベントを企画・実践することが決定。



↑スナック地蔵の様子

Point

地域に集いの場（交流空間）を設けることで、住民同士の交流が生まれ、地域をより良くするためのアイデアが自然に発散される環境に発展。

[ばしょ・きっかけ・つながり]

- ばしょ : 六地蔵公会堂・奈良町児童遊園
- きっかけ : 地域住民による公会堂と公園を一体活用したイベントの実施
- つながり : イベント実施にかかる多様な主体の協働による顔の見える関係性づくり



Step.3 ろくみら プチまつり 企画・運営

イベントテーマを「子育て世代と地域をつなぐ」とし、メインターゲットを子育て世代に設定。
六地蔵エリアの商店と子育て世代とのつながり創出を目的に、多様な催しを企画・実践。



↑ろくみらプチまつりの様子

Point

様々な主体と協働しイベントを企画・運営することで、新たなつながりが生まれました。

Step Up 地域住民の 集いの場 (スナック地蔵)

イベントを通じて、ろくみら実行委員会の認知度が高まり、地域交流会（スナック地蔵）の参加者が増加。
地域に集いの場を創ることで生まれたつながりが、イベントの実施を通じて、新たなつながりへと広がりを見せている。



↑スナック地蔵の様子

Point

地域の集いの場をきっかけに新たなつながりが生まれ、そのつながりが集いの場の活性化へとつながる好循環が生まれています。

Step.2 スナック地蔵の様子



Step.3 3くみりプチまつりの様子



[事業]ーディネーターの想い]

ろくみら実行委員会 西村さん（西村防災設備株式会社）



私たちの取組は、メンバーそれぞれの得意分野を活かして、地域の活性化を目指しています。

子どもたちに「明るい未来を見せたい」、「暮らしやすいまちを残したい」という想いで、活動に取り組んでおり、子育て中の方々とその子どもたちが無理なく参加できるよう、時間帯や内容の工夫、交流が生まれる雰囲気づくりに配慮しています。

今後はさらにこうした工夫を充実させることで、子育て世代をはじめとした幅広い世代の参加を促し、六地蔵エリアの活性化を目指します。

ろくみら実行委員会 潮見さん（川魚専門店 うなぎのしお富）

商店街には「まち全体で子どもを見守り育てる環境」が潜在的にあるように思います。

人との触れ合いが希薄化している現代ですが、今回のような取組を通じて、困ったときに相談できるような関係を築くことができると考えています。

今後、この活動が地域に定着し、さらに活動の仲間が増えることで、私たちのような地域の個人商店と子育て世帯がつながり、安心して子どもを育てられる環境が広がっていくことを期待しています。そして最終的には、「まち全体で子どもを見守り育てる環境」を実現していきたいです。



はすみんなかふえ

[取組の概要]

定期的に集会所を開放し、駄菓子やドリンクを楽しみながら気軽に立ち寄れる場づくりに加え、夏まつりなどの季節イベントを通じて、世代を超えた交流の機会を生み出している。

特別な施設や大規模なイベントでなくとも、地域にある集会所を開放し、人が集える工夫を施すことで、これまで関わりの少なかった地域住民同士が自然につながり、顔の見える関係が広がる等、新たな地域の居場所づくりにつながっている事例。

[ばしょ・きっかけ・つながり]

ばしょ : 蓮池中集会所

きっかけ : お茶タイム、駄菓子、遊び
季節のイベント など

つながり : 居合わせたもの同士で相談したり、
教え合うことで会話が生まれ、
地域のつながりができる



[事業]ーティネーターの想い

はすみんなかふえ 阿戸さん



何かをしなければならない場所ではなく、**何もせずゆったりと過ごせる“実家”のような空間づくり**を心がけています。

まちのリビング創出促進事業補助金を活用し、屋外での時間を楽しめるようテラステーブルを購入したほか、お正月には地域の皆さんと一緒に餅つきを楽しめるよう、餅つき機も購入させていただきました。

今後も、参加してくださる方一人ひとりのリクエストや希望を大切にしながら、**みんなでゆったりと楽しめる時間を重ねていきたい**と考えています。

開催日はインスタグラム等で発信しています。ぜひ“実家”のような気持ちで、ふらっとお立ち寄りください♪

※ “はすみんなかふえ”の阿戸さんは前述（P2～7）で紹介した老ノ木集会所・老ノ木児童公園の取組にもご協力いただいております。

はすみんかふえの様子

地域の方と交流して繋がろう！

はすみんかふえ

街のソーシャルスポット
お家の電気代節約
みんながホッとできる「たまり場」
おしゃべり・お茶・ちよこ
つとまひ、おとも子どもも、誰でも
ほらつとまを

参加費 100円

日時 毎月第1・第3 10:00 ~18:00
木曜日

場所 蓮池中集会所
〒611-0042
宇治市小倉町蓮池151の25

開催日
9月4・18日
10月2・16日
11月6・20日
12月4・18日
1月8・22日
2月5・19日

お野菜販売
香醇の菓文字
はがき体験
履ってできる体操や
その他フリーストップも
取り入れたいと思っています

この事業は宇治市まちのリビング
活動補助金を活用しています

お問い合わせ
あどちゃん
09047614007




食で健康づくりのまち事業

【取組の概要】

地域にある花屋の一角を開放し、ワークショップや季節に応じたイベントを開催することで、誰もが気軽に立ち寄れる交流空間を創出。

また、花屋という日常的に人が訪れる場所を活用することで、これまで地域活動に参加してこなかった人たちの参加のハードルを下げ、ふらりと立ち寄れる”開かれた場所”となった。

民間施設の一部を地域に開放することで新たな交流空間を生み出したものであり、地域における新たな交流空間の可能性を示す事例。

【ばしょ・きっかけ・つながり】

ばしょ : 花おりfreeスペース

きっかけ : ワークショップ、季節のイベント

つながり : ワークショップや季節のイベントを通じた出合いや、日々に役立つ情報の交換など、地域の方のつながりが生まれる

【事業】コーディネーターの想い

花おりfreeスペース 中田さん



薬膳や野菜の栄養を日々の食生活に取り入れるための学びの場を開き、講座や実践的なワークショップを通じて、**参加者が無理なく参加し、継続して集える工夫をしています。**

また、採択いただいた**まちのリビング創出促進事業補助金**を活用し、調理器具や備品の整備をさせていただき、**参加者が快適に過ごせる環境を整えました。**

取組の中で、少しずつ参加者同士の交流も見受けられます。誰もが立ち寄れる安心の場から、食を通じた健康の輪を広げていきます。

食で健康づくりのまち事業の様子



子どもみらいのen ~街のしあわせプロジェクト~

[取組の概要]

地域みんながつながり大切に、子どもからお年寄りまで年齢や性別を問わず関わることができる場所づくりを目指し、月1回のゴミ拾い活動を中心にキッズマルシェ等の様々な取組を実施。

日常的な活動の中に交流の要素を織り込むことで、普段は接点の少ない世代同士のゆるやかなつながりが生まれ、誰もが気軽に参加できる交流空間が創出された事例。

当該事業は2年の補助期間を経て、令和8年度より地域からの応援を受けて自走される予定。

[ばしょ・きっかけ・つながり]

ばしょ : こひつじこども園、西宇治公園、マルイ印刷

きっかけ : クリーンプロジェクト、マルシェ、キッズマーケット

つながり : 子どもたちが活動することで、地域のみんなが応援し、一緒に楽しむキッカケづくり



[事業コーディネーターの想い]

en bridge 田端さん（左） 勝見さん（右）



人と人の縁をつなぎ、**子どもたちに地域を大好きになってもらいたい**という想いで活動を始めました。

定期的を実施することで、活動中にお声掛けいただく機会も増え、新たにご夫婦やご家族で参加して下さる方もいらっしゃいます。

また、現在では、私たちの想いに賛同して下さる地元商店等から協賛金をいただきながら、活動を続けることができます。

今後も、活動を通じてつながった地域の縁を大切にしながら、**無理のない範囲で継続していきたいです**♪

子どもみらいのen～街のしあわせプロジェクト～の様子



にしおぐり放課後クラブ ~放課後のひみつきち~

[取組の概要]

同じ地域に住む子ども同士の交流を目的として、自宅やガレージを開放し、季節ごとのイベントやワークショップの開催に加え、宿題や自主学習ができる居場所づくりを実施。

小中学生を中心に多くの子どもたちが訪れ、宿題後に遊ぶ姿やテスト勉強に取り組む様子等が見られ、それぞれが思い思いの時間を過ごす場となっている。

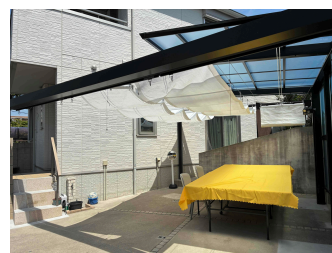
自宅の一部を地域に開くことで、子ども同士のつながりに加え、保護者や地域住民との交流も生まれ、「気軽に立ち寄れる場」として機能する居場所が創出された事例。

[ばしょ・きっかけ・つながり]

ばしょ : 自宅、ガレージ

きっかけ : 宿題、音楽、アート

つながり : 学年に関係なく子どもたちが声を掛け合い
地域住民が主体的に関われる活動空間に



[事業]ーディネーターの想い

しろくまべえす 竹田さん (左上)、河原さん (右上)、末永さん (左下)、森川さん (右下)



地域の子どもたちに自宅・学校に次ぐ「第3の居場所」を創りたいという想いで活動を始めました。現在では親子で参加される方も増え、保護者間のつながりも生まれています。

準備の観点から不定期開催となっていますが、**子どもたちの口コミで広がり**、幼稚園児から中学生まで毎回10名程が参加してくれています。また、**活動を通じて不登校の子どもが再び学校に通えるようになった事例もあり**、やりがいを感じています。

今後はご近所にお住まいのご年配の方々も参加できるイベントを企画し、**多世代交流の場として発展させていきます!**

にしおぐら放課後クラブ～放課後のひみつきち～の様子



放課後事業 ふらっと

[取組の概要]

地域福祉センターを活用し、多世代が気軽に集い、交流できる地域の居場所づくりを実施。

子ども同士で宿題を教え合ったり、大人が子どもに昔遊びを教えて一緒に遊んだりするなど、その場に居合わせた人が自由に過ごせる空間となっており、年齢や立場を越えた自然な関わりが生まれている。

地域にある公共施設を活用して、地域に開かれた住民の居場所を創出したことで多様な交流が生まれ、「気軽に立ち寄れる場」として機能している事例。

[ばしょ・きっかけ・つながり]

ばしょ : 地域福祉センター

きっかけ : 宿題、遊び、食事会、地域新聞作り

つながり : 遊び、学び、食を通じて多世代が集まる放課後の居場所に

[事業コーディネーターの想い]

ここいこおぐらのおうち (左から) 山田さん、畦森さん、中村さん、ラッセルさん



「ふらっと」は、子どもから高齢者まで、誰もが自然に関わり合いながら“みんなで作る居場所”でありたいと考えており、事業名のとおり、誰もがフラットな気持ちで、気負わずフラッと立ち寄れる空間を大切にしています。

世代を超えたつながりの中で、それぞれが役割や居場所を見つけ、高齢者の生きがいや、やりがいにもつながることで、安心して暮らせる地域づくりにつながればと願っています。

放課後事業ふりっこの様子



◎ まちのリビング創出促進事業補助金

「地域のために何かやりたい」という想いをもちた方に
オススメ!

若者や子育て世代をはじめ多世代にわたり、集いやすく、居心地のよいコミュニティスペースを活用した地域コミュニティの活性化に資する“まちのリビング”の創出促進を支援する補助金

※本書は、この補助金の活用事例を中心に紹介しております。

詳しくは
こちら



◎ 町内会・自治会活性化事業補助金

町内会・自治会活動の
活性化を目指す方に
オススメ!

地域コミュニティの活性化につながる町内会・自治会の取組を支援する補助金
旧) 地域コミュニティ活性化事業補助金

詳しくは
こちら



◎ 地域活動サポートデイ

地域活動をしている方、
地域活動してみたい方に
オススメ!

活動に関する個別相談会や活動団体同士の交流会、活動に役立つ講座等、楽しく地域活動を行うための様々な企画を実施!

詳しくは
こちら

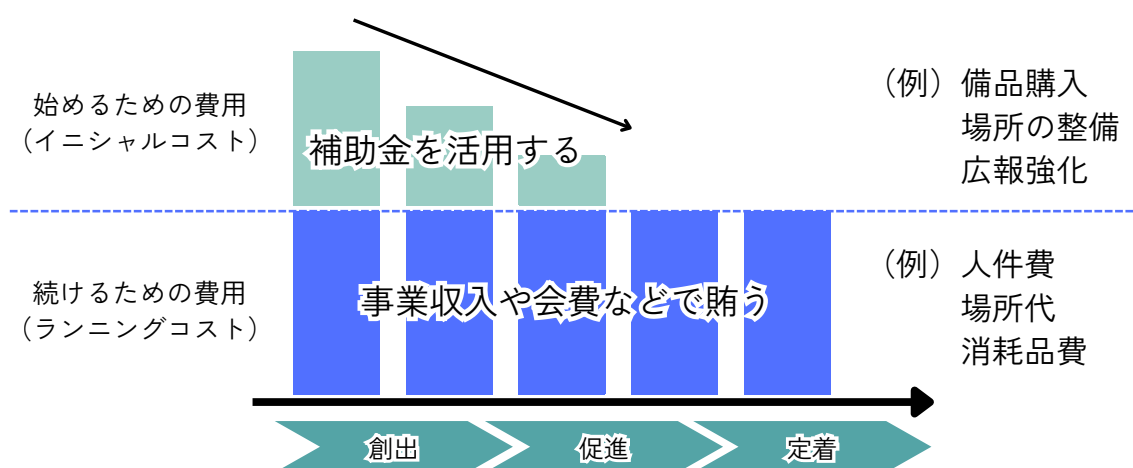


⚠ 補助金の活用にあたっての注意点

補助金はあくまで「補助」なので、補助金を活用しているうちに、**活動環境（以下のポイント）を整備**し、「補助」が無くなっても事業を継続運営できる体制を整えましょう。

① 事業収入を確保する方法 ② 資金計画や事業運営の工夫

※補助金活用のイメージ



⚠ 活動を続けるための“お金”について

事業を続けていくためにはお金が必要です。**目的（コミュニティの活性化）と手段（お金）が入れ替わらないように注意**しながら、収入を得て、活動を充実させていきましょう。

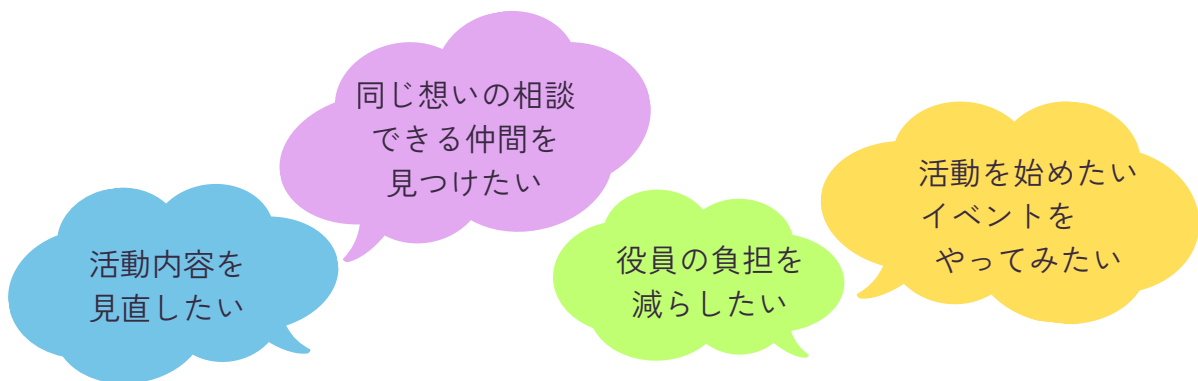
収入－支出＝利益（余剰金）

構成員や株主に分配
(これは「~~当利~~」)

次年度の事業に充てる

市民協働コーディネーターとは...？

令和8年度より、西小倉コミュニティセンターと東宇治コミュニティセンターに **市民協働コーディネーター** が配置されています。



など、地域に関するお困りごとや相談ごとについて、市民協働コーディネーターと一緒に考え、サポートします。

まずは皆さんのお話をお聞かせください。

お問合せ先

宇治市 総務・市民協働部 市民協働推進課
電話：0774-20-8721

 **宇治市 総務・市民協働部 市民協働推進課**

令和 8 年 5 月 発行